



博多旧市街で福博の秋を満喫!

近年、福岡市では、博多コネクティッドや天神ビッグバンなどの大規模な再開発プロジェクトによって、数多くのオフィスビルや商業施設の建て替えが行われています。福岡市の中核をなすエリアで次々と街並みが新しくなる一方、博多旧市街では古くからある歴史・文化的資源をストーリーでつないで環境整備し、福岡観光の定番化を図る「博多旧市街プロジェクト」が2017年(平成29年)から官民連携のもと進められています。

今回は、博多旧市街をより楽しむための歴史やイベントについてご紹介します。

※この誌面は、福岡市経済観光文化局観光コンベンション部提供の資料をもとに当所で作成しています。

博多旧市街の成り立ち

博多旧市街は、オフィスビルが立ち並ぶ一方、寺社が連なり、多様な文化を感じることのできる魅力的なエリアです。かつて中世最大の貿易港湾都市・博多の中心として栄えた地域で、中世に由来する歴史・文化が数多く伝わっています。

外国と交易が活発に行われるようになった平安後期(11世紀後半)には、博多綱首といわれる宋商人を中心に、多くの宋人が博多に住み始め、博多津唐屋や大唐街といわれる“日本初のチャイナタウン”が形成されました。今では、チャイナタウンといえば横浜や長崎が有名ですが、博多の大唐街は国際都市・博多のルーツとなり、13世紀後半の蒙古襲来に至るまで約200年間にわたって存在しました。場所は、現在の櫛田神社、聖福寺、承天寺を結んだ500メートル四方の地域が想定されており、博多旧市街は大唐街の形成によって多様な歴史・文化を育んできました。博多旧市街にある寺社の多くも、博多居住の中国人による直接・間接の援助によって建てられたものです。



▲博多旧市街周辺の地図(当所作成)

現代と比較した中世博多の地形がこちらからご覧いただけます!
(提供:福岡市埋蔵文化財センター)



博多旧市街プロジェクトとは

博多旧市街プロジェクトは、博多旧市街に点在する価値ある歴史・文化的資源を「ストーリー」と「街並み」でつなぎ、福岡観光の定番化を図るために2017年からスタートしました。観光客だけでなく、市民も博多旧市街の歴史・文化を体験できるような取組みが行われています。



HAKATA OLD TOWN

▲博多旧市街のロゴマーク

ストーリーでつなぐ

街歩きコースの設定と音声ARのガイドコンテンツ制作

櫛田神社や博多町家ふるさと館など博多商人により育まれてきた街並みを味わえる「博多伝統文化コース」、寺社仏閣を中心に伝統的景観と情緒あふれる街並みを散策できる「博多寺社めぐりコース」が設定されています。個人でマップを見ながらゆっくり回るもよし、観光ボランティアガイドとお話しながら回るもよし!

さらに、スマートフォンに専用のアプリをダウンロードすれば、いつでも音声ガイドやオリジナル音声ドラマを楽しむことができます。(一部多言語対応あり)



▲街歩きマップ

マップ詳細はこちら

音声AR詳細はこちら



街並みでつなぐ

統一コンセプトでの観光案内板整備

博多旧市街の歴史的建造物や施設に設置されている観光案内版は、全て統一されたコンセプトのデザインで統一されています。街歩きをする際は、このデザインが目印です!



▲承天寺の案内板

歴史・文化に配慮した道づくり

博多旧市街の名所をつなぐ主な通りは、歴史・文化に配慮した趣のある石畳風の道路に再整備されています。



▲榎田神社の表参道



▲御供所通り

公共交通機関と連携したPR

2022年には、福岡市営地下鉄・祇園駅の副駅名が「博多旧市街口」に設定されました。祇園駅の構内には、博多旧市街の歴史・文化にちなんだ「祇園の擬音」が50種類以上も紹介されています。

このほか、今年3月に延伸開業した「榎田神社前駅」には、博多祇園山笠の壁面装飾や博多の伝統工芸品の展示が施されています。



▲祇園駅のホームドア

博多旧市街を“深”発見！

博多旧市街の秋の風物詩の一つに「博多旧市街ライトアップウォーク」があります。2006年からスタートしたこのイベントは、博多の夜の魅力創出や地域の活性化を目的として、寺社の建物や庭園のライトアップが行われ、昼間とは異なる博多旧市街の魅力を感じることができます。

博多旧市街をさらに楽しめる“発祥・伝来の地”の歴史をご紹介します！

博多旧市街
ライトアップウォーク2023 「千年煌夜」

日時 11月2日(木)～11月5日(日)
17:30～21:00点灯

会場 榎田神社、龍宮寺、東長寺、承天寺、妙楽寺、
円覚寺、本岳寺、善導寺、妙典寺、海元寺、
一行寺、博多千年門、葛城地藏尊
※会場には、有料会場と無料会場があります。

ライティングテーマ 華



博多文化発祥の地 ～承天寺～

承天寺は、1242年に聖一国師(円爾)が日宗貿易で巨万の富を得た謝国明の助力を得て開いたお寺で、様々な博多文化の発祥の地といわれています。



うどん・そば発祥の地

聖一国師が宋から「水磨」という水車による製粉技術を持ち帰り、うどん・そばの作り方を日本に広めたことから、承天寺はうどん・そば発祥の地といわれています。また、謝国明が大晦日に貧しい人々へそばをふるまったことが年越しそばの始まりともいわれています。

博多祇園山笠発祥の地

1241年に博多の町に疫病が流行した際、聖一国師が木製の施餓鬼棚に乗り担がれて疫病退散を祈禱し、聖水を撒いて回ったことが博多祇園山笠の起源とされています。

博多織発祥の地

聖一国師と共に宋から帰国した満田弥三右衛門が持ち帰った唐織の技術が、博多織の始まりとされています。献上柄といわれている独鈷や華皿の模様も、聖一国師の発案によるものとされています。

饅頭発祥の地

聖一国師は、親切にもてなしてくれた茶店の店主・栗波吉右衛門に酒饅頭の作り方を伝授し、「御饅頭所」の看板を与えます。栗波吉右衛門は「虎屋」の屋号で酒饅頭を売り出しました。



▲左から「饅頭蕎麦発祥之地」の碑、「御饅頭所」の碑、「満田弥三右衛門」の碑



▲「博多祇園山笠発祥之地」の碑

ういろう伝来の地
～妙楽寺～

妙楽寺は、1316年に大応国師が開いたお寺です。創建当時は博多湾岸の浜にあり、明(中国)に渡る遣明使が宿泊するなど対外交渉の拠点となっていました。

ういろうの伝来には、次のような言い伝えがあります(諸説あり)。1368年、中国大陸では元が衰退し、明が成立します。この時期、元で「礼部員外郎」という医薬に関わる役人を務めた陳延祐が博多に渡り、「陳外郎」と名乗りました。陳外郎は、万能薬「透頂香」を室町幕府の三代将軍・足利義満に招かれ、献上したといわれています。また、陳外郎の長男は、医者でありながら大陸からの使節に対する接待役でもあったため、陳外郎家に代々伝わる菓子でもてなしました。博多港経由で伝わった菓や菓子は、陳外郎の子孫に代々受け継がれ、しだいに「ういろう」と呼ばれるようになりました。



▲「ういろう伝来之地」の碑

今回は、博多旧市街の歴史やイベントをご紹介します。この他にも、博多旧市街の魅力が詰まったお土産や体験、宿泊プランなどが登録されている「博多旧市街セレクション」があります。福博を堪能する秋のおでかけを計画する際は、ぜひご利用ください！

